大阪府内魚類相データの収集

生物多様性の評価や、絶滅のおそれのある種（レッドリスト記載種）の選定、保全のための最も基礎的かつ重要な知見として、主に河川の魚類生息状況を調査しています。

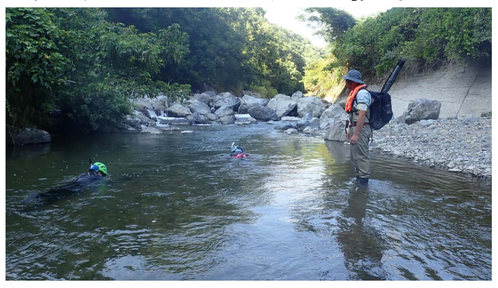
調査方法

- 魚類の調査には河川環境や対象となる種によって、様々な漁具や方法を使います。

投網

タモ網

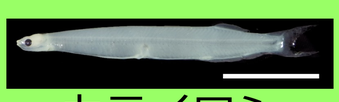
地曳網


潜水目視

府内22河川の調査結果（2012年～2015年）

在来種を74種確認

- 通し回遊魚と周縁性淡水魚 (汽水域で採集した海産魚含む)が過半数を占めました.

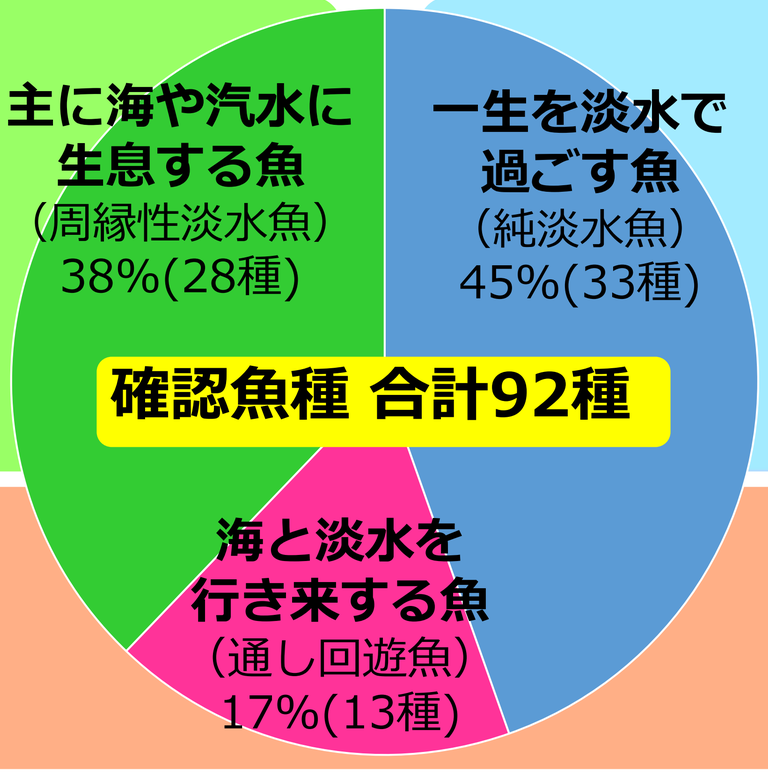

カライワシ

イセゴイ

クルメサヨリ

キチヌ

マハゼ



シマヒレヨシノボリ

カワヨシノボリ

イタセンパラ

ヨドゼゼラ

ニホンウナギ

カワアナゴ

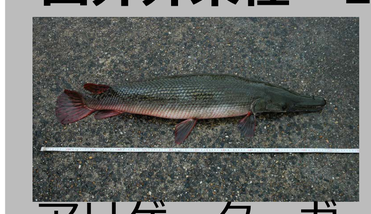
ゴクラクハゼ

クロヨシノボリ

外来種を18種確認

- コクチバスやチャネルキャットフィッシュ、アリゲーターガー、オヤニラミなどの外来種を確認しました。

国外外来種　13種


アリゲーターガー

カダヤシ

オオクチバス

コウタイ

国内外来種　5種

オヤニラミ

ワカサギ

新たな調査手法の導入～環境DNA～

- 従来の捕獲調査に加え、**環境DNA**を用いた調査手法の導入に取り組んでいます。

水中に含まれる生物の
細胞や排泄物由来のDNA

採水

ろ過とDNA抽出

リアルタイムPCRによる解析

２０１８年9月作成

地方独立行政法人 大阪府立 環境農林水産総合研究所
生物多様性センター